

もっと地域と学生が交流を！



北海道医療大学 学生ボランティアネットワーク

左から 高田裕斗さん（副代表）、長谷川優さん（代表）、近藤綾香さん（副代表）

北海道医療大学には160名が登録する学生ボランティアネットワークがあり、町の福祉事業と連携をとった活動を展開しています。今月は会の代表に学生のボランティア活動などについてお話を伺いました。

「学生のまち 当別??」

3人 はいづれも看護福祉学部臨床福祉学科の4年生で道内出身者。大学に入学するまで当別は「学生のまち」というイメージがあったそうです。しかし現実には校舎が市街地から離れていることもあってか、町民との交流が少ないと感じていました。将来、病院や社会福祉施設での仕事に就く場合は子どもからお年寄り、障がいを持つ人などとの関わりを実体験することが重要と考えてボランティアネットワークに登録しました。

ゆうゆう 24にはそんな地域

住民と学生ボランティアをつなぐコーディネーターの方がいて、様々なアドバイスをしてくれています。主な活動は、地域福祉の勉強会の開催や児童のディサービス、オープンサロンでのイベントの企画運営で、7月には「子どもまつり」を実施し、地域の方が子ども達に独こ楽回しなど昔遊びを教えたり一緒に遊びました。予算書や事業の企画書を作るとき、これまでの知識が足りなく苦労しましたが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見て、良い事業ができたことに満足できました。

いちごのき・も・ち

ドーナツ は今ではオープンサロンでの人気メニューですが、障がいのある方の活躍の場を広げたいと思い、共同で試作を始めました。学生や小さな子ども達の笑顔を思い浮かべてココア生地をイチゴチョコレートで包みイチゴ果

肉（クランチ）をちりばめた「イチゴのきもち」が2ヶ月かけて完成しました。大学の九十九祭やオープンサロンでの販売も好調です。1個120円ですから町中の人に食べてもらいたいですね。これらの活動が認めら



れて北海道新聞社会福祉基金と北海道社会福祉協議会から助成金の交付も受けることになりました。

地域の方 ともっと身近になりたいですね。話し相手になったり、一緒にお散歩したりそんな交流が大事だと思います。町民の方々とふれあう機会を設けていきたいと思っています。どうぞボランティアネットワークに声をかけてください。

問合せ 地域福祉ターミナル
(☎ 25 - 5137)